

クウェートでの学び

橋本綾乃

私はクウェート留学が決まるまで社会人として働いていたので、他の留学生とは全く違う経歴を持っています。大学での専攻もアラビア語やイスラームとは何の関係もなく、ただアラビア語学習への熱意が強かっただけなのですが、社会人である私にも留学の機会をいただき、大変感謝しています。

さて、一年間の留学プログラムを終え、アラビア語以外の部分で私が得たこのプログラムでの学びをここで述べたいと思います。

以前、足木大使から留学生一同が初めて大使公邸にお招きいただいた際、大使から「アラビア語はたった一年の留学で完全に習得できる程簡単な言語ではない、それ以上にクウェートで実際に生活していく中で、この国の人がどういった考えや特性を持っており、その彼らとどう付き合えば良いかを会得する方がこの留学の財産となる」といった趣旨の内容を仰っていました。留学を終え、まさにその言葉の通りであったと痛感しているところですが、それは以下二つの体験から言えることです。

体験1

勉強のためにクウェートに来たにもかかわらず、日本人留学生を含め数名の生徒の寮の部屋に机と椅子がなく、再三にわたり寮にいる担当者に支給するよう訴えたことがあります。訴えられて困った寮監は日本人感覚からいうと理解に苦しむのですが、平気で適当な日にちを指定し「〇〇日に入手できる、インシャアッラー」という具合に言ってきます。適当に明確な日にちを指定され、それをこちらも毎度真に受けてしまい、裏切られ、苛立っていましたが、それはいつまでも日本人感覚というものをベースに相手を見て、対話しているから相手が理解できないのだと思い知らされました。人に動いて欲しいと思うなら、まずは自分が相手の特性を受け入れなければなりません。また、交渉する際には言い方の強弱以上に彼らのプライドだけは傷つけない言い方をしないと聞く耳を一切持たなくなるということも交渉の中で気付かされました。結局、残念ながら机と椅子は入手できませんでしたが、それと引き換えに、トラブルが起きた際や交渉時における彼らの言い方や考え方の特性を学ぶことができ、今考えると、それは物が入手できなかった以上のモノを得ることができたのだと思われまます。

体験2

往路の航空券代金返金を訴えに大学に行った時のことです。提出した返金に必要な書類が見当たらないので、手続きをもう一度始めからやり直すよう担当者に言われ、追り返されました。その後、既に別のキャンパスにその書類が送られていたようで、スタッフ間での業務の伝達の悪さや、書類の管理の甘さを目の当たりにしました。結局、無事返金に至りましたが、特に事務手続きは担当者が休暇で不在となることがしばしばあるので、日にちを詰めて担当者の元に足繁く通うことが必要です。日本ではたった一つの手続きに何か月もかかるような事や、重要な書類を紛失されるような事態はあまりありません。ですが、日本と同じレベルをこの国で期待する方が間違いなのだと割り切ることも必要です。

以上の体験を通して、クウェートで得た学びとは日本人である自分はこの国でマイノリティーであり、現地の人との付き合いにおいて日本人の感覚を適用しても仕方がないということです。物事を解決させる為の第一歩は、日本人感覚で相手の行動や言動を予測、評価するのではなく、今はクウェートで生きているのだから、今まで日本で当然と考えていたことは、ここでは当然ではないと気付くことです。そして相手のプライドを尊重しながら、辛抱強く働きかけを続けていくことが解決の糸口となるのだと理解しました。ここまでの内容だとこのプログラムを今後応募しようと思われている方を不安にばかりさせてしまうかもしれませんが、私の留學生活でクウェートが嫌で日本に戻りたいと思うような日は一日もありませんでした。それはいつも日本大使館の皆さんをはじめクウェート人の友人のサポートがあったからです。クウェート人の人付き合いの距離は日本人のそれとは大きく異なり、一度仲良くなると家族の一員のように接してくれ、私が勉強等で困っている時にはすぐ駆け付けてくれました。また人情味に溢れ、義理堅く、彼らのおもてなしとは表面的ではなく、もっと深いところで人に尽くしてあげてことをいうかなと感じました。彼らと接する中で、当然アラビア語を学びはしましたが、単なるツールである言語を超えてもっと精神的な部分を知り得ました。

大使の仰る通り、一年の留學で自分のアラビア語のレベルが使い物になる程に飛躍したかという疑問が残ります。ですが、実社会ではもちろん、アラビア語が出来るか否かということ以上に、現地における人との付き合い方や問題対処法を学び、そして何より彼らの心に触れられたことが、これからの私の人生における糧となっていくのではないかと考えます。



パーティーで留学生と



コミコンで書道のお手伝い